



設計事務所の特徴

■新潟県の設計事務所を代表する『オール新潟』チーム  
魚沼市の気候風土を熟知している地元の3設計事務所と、新潟県内で多くの公共施設や図書館等の実績が豊富な2設計事務所による、オール新潟のチームです。  
これまでも協働経験のあるメンバー構成とし、チーム内のスムーズなコミュニケーションが可能となります。また、各分野においてアドバイス・チェックを行う充実したバックアップ体制を整えます。



■分室「UONUMA事務所」開設:基本設計段階において、事務所の分室を南本町商店街に設け、スタッフが常駐しながら設計を進めます。設計事務所の機能だけでなく地域に開放し、図面や模型、イメージCGを展示して市民からの意見を吸い上げるチャンネルを増やします。

■図書館・複合施設など公共施設の実績を多く持つ設計事務所です



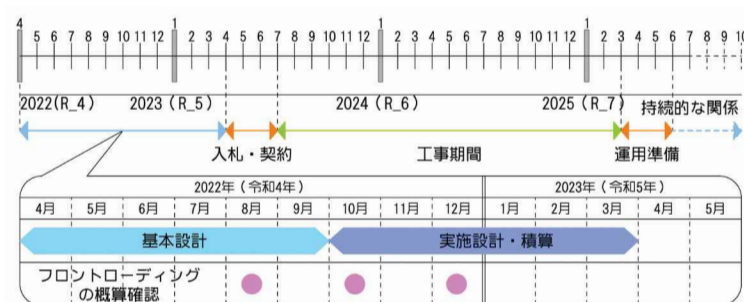
業務への取組体制

■顔の見えるコミュニケーションを重視  
近隣住民、市民、市役所などにヒアリングを行い、設計に活かしていきます。できるかぎり直接お会いし、対話を通して合意形成を積み重ね、設計を進めます。

■わかりやすい情報(資料)共有  
大きく見やすい模型やCG・BIM・VRによる視覚的な資料を活用し、提案内容が正確に理解してもらえるように努めます。



■手戻りの無い工程管理  
フロントローディングの手法を用い、後戻りのない設計を進めます。工期遅れや無駄なコストの発生も抑えられ、建築物自体の品質を高めることができます。



■徹底したコスト管理

予算内での実現のため、経験豊富な積算チームと一体となった徹底したコスト管理を行います。市民や市役所とのワークショップを通して、市にとって必要な機能を整理し計画に反映させます。

"にぎわい"を生み出す設計方針

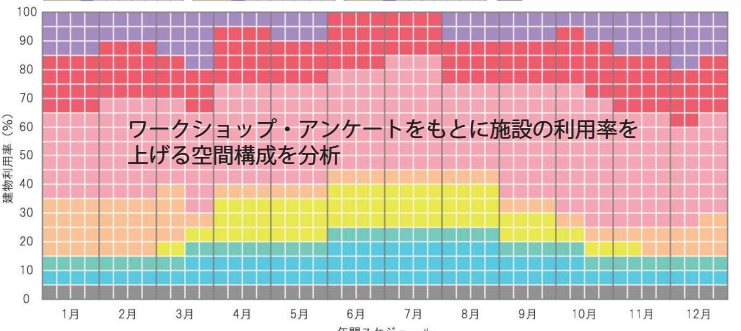
市民と共に創ることで、施設に愛着を持ってもらい、市民のリビングをつくります

家を建てるとき、お客様と設計者は綿密にコミュニケーションをとり設計を進め、出来てからも自分の家に愛着を持って使います。この建物においても、市民の皆様はその感覚を持って頂き共に設計を進めていきます。

市民の声を吸い上げ、徹底的に利用率を上げます

■ワークショップ・アンケートの実施手法:移動距離や時間、世代や環境により、施設の利用方法や時間帯への要求は大きく異なると考えます。ワークショップやアンケートはその要求をごちゃ混ぜにせず整理しながら行います。

■魚沼市民の生活リズムを取り込む計画:施設への利用要求は、季節・年・月・週・日・時間と市民の生活リズムに合わせて変化していきます。夏の暑い時・冬の寒い時・学生の休暇期間など季節に応じた変化、平日と休祭日での変化、午前・昼休み・午後・夕方・夜でも変化します。その変化を敏感に読み取り、柔軟に対応できる建物とし、利用率の高い施設を計画します。



■魚沼市オンリーの施設づくり

市民の生活リズムを取り込んで創られる建物は、図書館のようではなく、公民館のようではない、魚沼市でしか存在しない、生涯学習センターとなります。

土地の記憶を重ね、魚沼市らしさを表現し、市民に親しまれる施設を創ります

計画地である小出地区は銀山の開発により水運で栄えたまちであり、銀山に通じる街道の宿場町として発展した柳原は、元々船着場があり、船宿、料理屋、民家などが魚野川に沿って並ぶとてもにぎやかなまちでした。現在は魚野川河川改修により、その柳原が南本町へ引っ越して来ましたが、その記憶を重ね市民に親しまれる建物を目指します。

■『小学校』の記憶

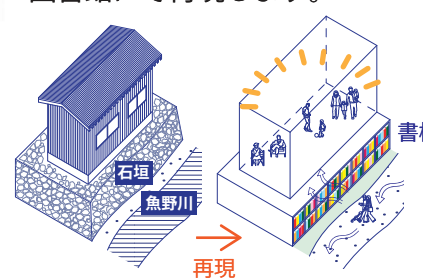
計画地はかつて小学校の校庭だった場所です。1階ホール+にぎわいひろばや、時には、駐車場とも繋げてイベントを開催できる計画とし、小学校の校庭だったところの子供たちの賑わいを再現します。

■『町役場』の記憶

人が集まる地域の中心としての役割、災害時の避難拠点としての役割を継続していきます。

■『柳原』の記憶

→魚野川沿いに見られた石積み風景を、書架になぞらえて、図書館にて再現します。



柳原の石積み風景を再現した図書室のイメージ



昔の計画地周辺



現在の計画地周辺



旧小出町役場



柳原の石積み風景1



柳原の石積み風景2

にぎわいが溢れ出す配置計画

【テーマ1】

配置計画

市民が集まりやすく利用しやすい施設とするため最適な建物配置を計画します。周辺商店街と連携したにぎわいの創出に加え、周辺に駐車場の少ない地域にあって、まちなか駐車場としての使いやすさを考慮した計画とします。

○通り(街)と繋がる施設 A ○駐車場へのアクセスが良い B

○北側駐車場→雪が溶けにくい C ○郊外商業施設タイプの配置 D

評価項目	A	B	C	D
●通り(街)との繋がり・にぎわいの創出	○	△	○	△
●街中駐車場としての使いやすさ	○	○	△	○
●周辺環境(通風・採光)	○	○	△	△

ピロティ駐車場比較

1階ににぎわいを創出する機能を配置します。ピロティ駐車場を街に向けることはにぎわいが生まれないと考え、屋根付き駐車場を提案します。屋根の範囲は市民の要望や予算に応じて調整が可能です。

1階の暗い駐車場

●1階ピロティ式駐車場(大)

●1階ピロティ式駐車場(中)

●1階ピロティ式駐車場(小) + 屋根付き駐車場

にぎわいが増幅される外部空間

【テーマ1】

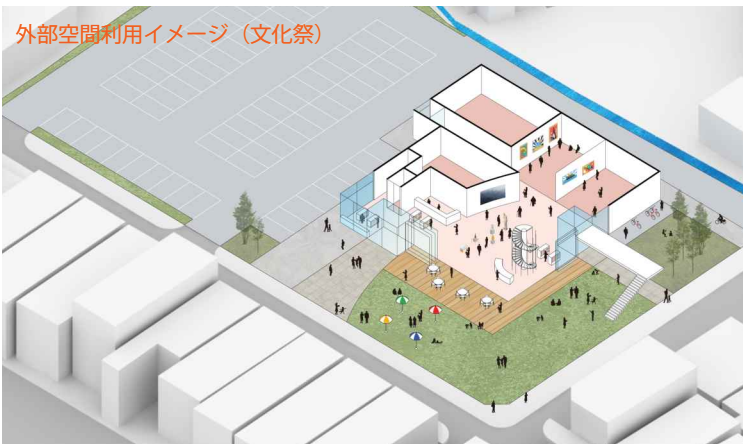
『にぎわいひろば』

建物と南本町商店街の間にだれでも気軽に立ち寄れる都市公園を設けます。『憩いのホール』と連続させて、建物内部の賑わいを商店街へと増幅させます。

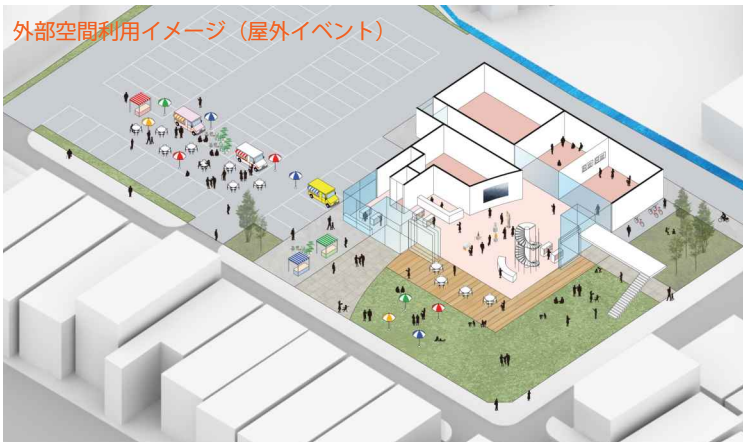
防災公園としても機能すると考え、マンホール便所等の設置を検討します。

『木立のにわ』

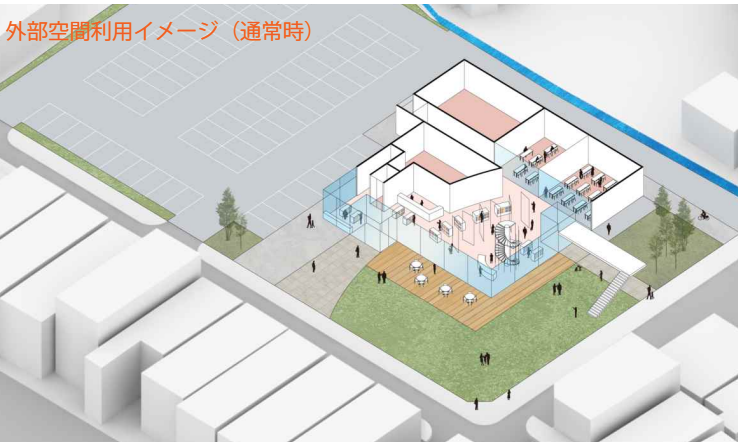
『にぎわいひろば』の北側には魚沼市の木であるコブシや市の花であるカタクリ、特産品のユリを植樹します。建物が立ち並ぶ商店街の一角に潤いと彩りを与える庭を計画します。



外部空間利用イメージ(文化祭)



外部空間利用イメージ(屋外イベント)



外部空間利用イメージ(通常時)

市民が気軽に立ち寄り、商店街に潤いと安らぎを与える公園機能を設けます。

駐車場と連続して、屋外イベントを行うことも可能です。

魚沼らしい生涯学習の拠点

【テーマ1】【テーマ2】

UONUMA BASE<魚沼ベース>

●知のBASE: 多世代の学びの拠点(図書館機能)

保育園・小中学校等と連携して各施設の図書コーナーを充実させ、子どもの読書環境を整備し、本と親しむ機会を増やし、読書活動を推進します。多世代の市民から寄せられるニーズに応え、できるだけ多様な資料や情報を収集、整理、提供、保存する場所とします。

●まちのBASE: 人が集い・流れる起点(公民館機能)

魚沼市の小出庁舎と小出公民館があった本計画地は、元から人々の集まる拠点となっています。図書館と公民館機能を備えた生涯学習センターに人が集い、また、ここを拠点に商店街や周辺施設へ人々が流れる起点となり、自然と人々が出会い・交流する場所となるように計画します。

●防災のBASE: 自助・共助の拠点(避難所機能)

魚野川と佐梨川に近い計画地も浸水想定区域に指定されているため、1階の階高を6mとし、万が一の事態に備えた一時避難場所となる計画とします。また、普段から災害対策の情報を発信し、市民の自助意識を高めます。

●生涯学習(情報)のBASE: 新たな興味・好奇心の起点(複合施設として)

図書館機能の資料を活用した様々な学びや遊び、活動、イベントを行える場所を計画します。また、様々な情報に出会う場所であるとともに、市民が新たな情報を創り、発信する場所としても活用できる施設とします。



複合施設のコンセプト

【テーマ1】【テーマ2】

●複合施設のベネフィットを高めるために: 図書館・公民館は幅広い世代の人々が訪れ、図書館は本を読む・借りる・調べる・勉強する・休憩する、公民館はサークル活動やカルチャースクール・展示会など、それぞれ多様な使い方があります。その2つの機能が結び付き、図書館に来た人が公民館の活動に触れ、公民館に来た人が本に触れ、互いに相乗効果を生みながら、長期にわたって親しんでもらえる複合施設を創ります。市民をはじめ、市外や他県の人々までもが魚沼市に興味を持ち、集い、住まう拠点となることを目指します。

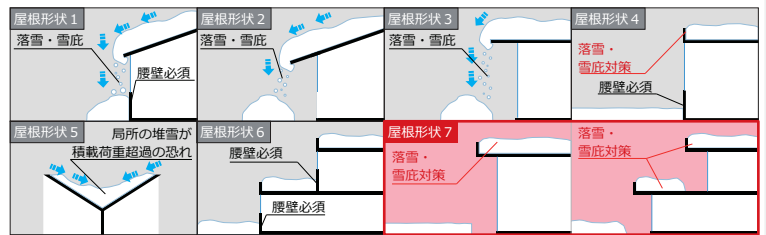
●多世代が交わる「ボーダーレスな空間」づくり: 核家族化が進み、世代の枠を超えた交流の機会は減少する一方で、この状況を解消し豊かな社会を目指すため、様々な世代が憩い、集うスペースを計画し世代間交流が生まれるボーダーレスな空間をつくります。

雪と向き合い、共に生きる施設計画

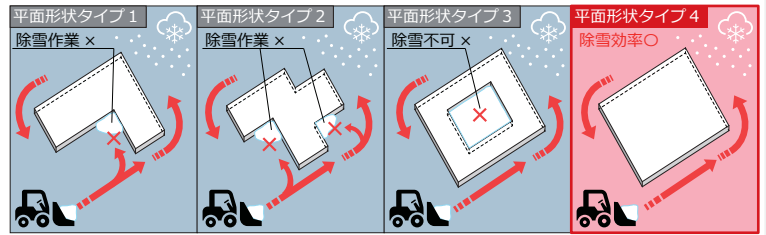
【テーマ1】

特別豪雪地帯である本計画地においては、雪とどのように向き合うかが、建物を計画していく上で重要な要素になると考えています。特に、外殻となる屋根・平面の形状は雪への対応を最優先に考え決定していく必要があると考えています。

●屋根: 屋根形状は、建物周囲の落雪と構造躯体への負担を考慮して決めていく必要があります。落雪対策としては、パラペットを十分に立ち上げ、雪庇ができていく笠木形状を検討します。構造躯体への負担は、局所的な堆雪が積雪荷重(3.0m)を超えることがないように、フラットな屋根が一番良いと考えています。融雪装置に頼った計画では、装置の故障時や瞬間的な大雪の時に安全性を担保できないことから、屋根形状にて対策する必要があると考えます。



●平面: 駐車場は大屋根を掛けて、最低限、除雪無しで利用できる想定ですが、市民の皆様のご要望やコストバランによって、大屋根の範囲を調整していきます。その中で、機械除雪の場合でも、除雪しやすい平面形状も考慮しながら計画していきます。除雪車は雪を押ししていきますので、入隅の多い形状や行き止まりのある形状、複雑な形状は除雪しにくい建物となります。なるべくシンプルな平面形状とし機械除雪に対応できるように設計を進めていきます。



屋上の雪止め対策

長年の、地元での設計活動を通して考案されたステンレスワイヤーによる雪止め対策をご提案します。雪の圧力を柔らかく受け止め、壊れにくい構造になっています。



魚沼市の美しい風景を計画へ取り込む

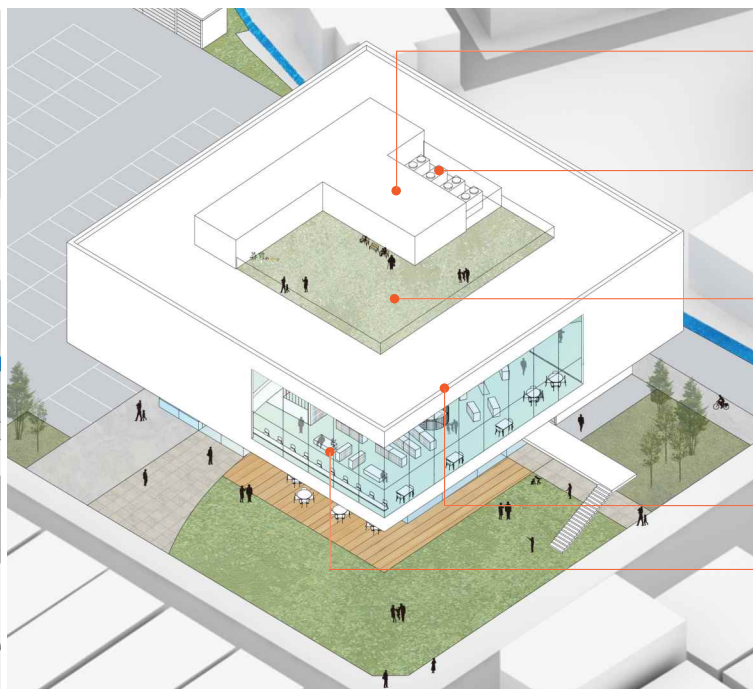
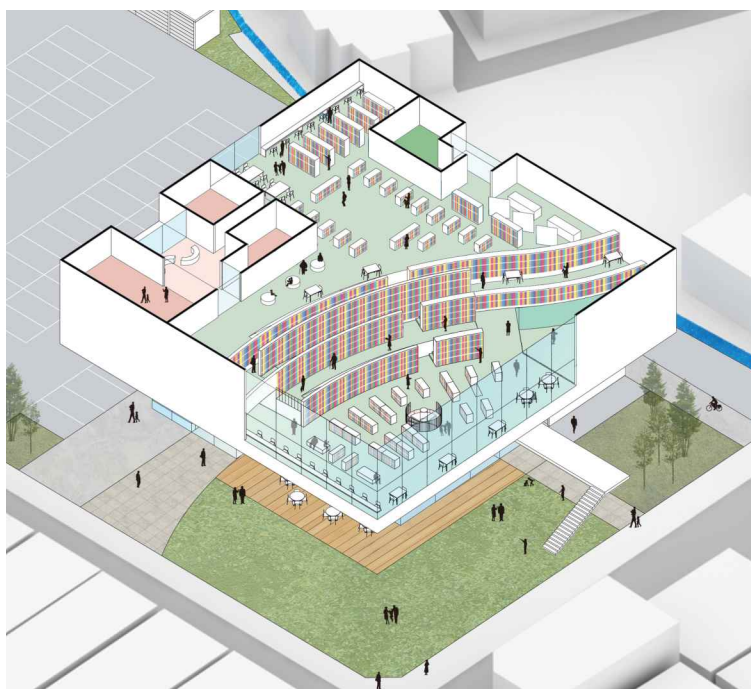
魚野川の美しい風景である、霜氷(シガ)や、山々や水田で見られる朝霧の風景をモチーフとしたデザインの提案をします。



●霜氷をデザインモチーフと 幻想的な風景を外装デザインしサイン計画等を提案します。ンへ投影します。

魚沼市民の声を満載にし、アクティビティーが重なり合う平面計画

【テーマ2】



浸水災害の可能性を考慮し、キュービクルや発電機、受水槽、備蓄倉庫を屋上階へ配置します。

機械室は、建物外周部へ設け更新しやすい計画とします。

屋上には、市民が佇める庭園を設け、天気が良い日には、外で本を読める空間を用意します。庭園からは越後三山を望むこともできます。

屋上の雪は堆雪型とし、落雪防止フェンスを設けて対策します。

本を痛めないように、ガラスには、フィルム貼やブラインド、カーテン等の日射制限を検討します。

地域資料コーナーは、企画展示や常設展示を行えるようにし、魚沼の文化や魅力を市民へ啓蒙し、外部へ発信できるように計画します。

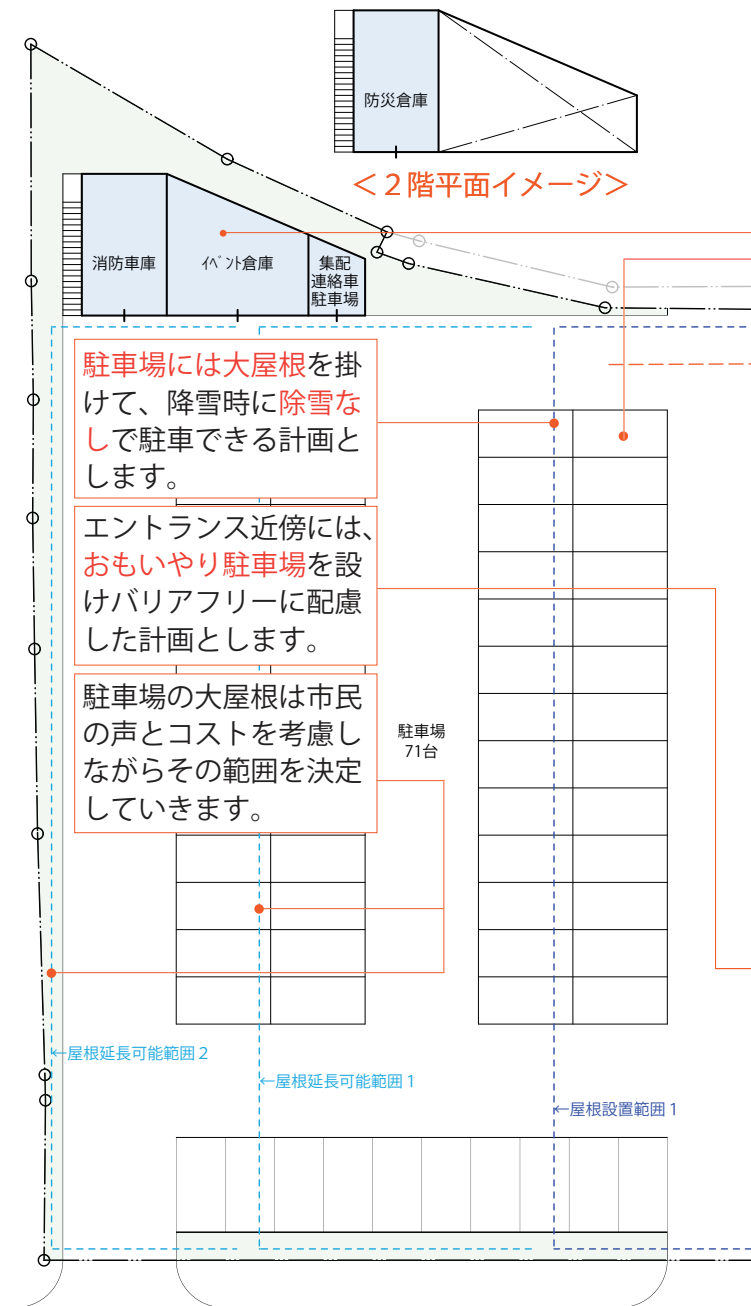
大活字本、展示図書コーナーは動線が交錯しない、落ち着いた場所に配置します。

ゆるやかなスロープでつながれた段状書架は、車椅子での利用も可能です。

開架図書室の各所に閲覧コーナーや椅子を置き、利用者へ多様な居場所を提供します。



<3階平面イメージ>



<2階平面イメージ>

消防車庫・イベント倉庫は別棟として、法的制限や建物仕様を本体と切り放してコントロールし、ローコスト化を計ります。

駐車場は71台駐車可能で、22台分に屋根を掛ける想定ですが、ご要望に応じて、その台数を増やすことも可能です。

視聴覚室兼多目的室は100人で利用可能な室です。2室に分割可能とし、また、憩いのスペースへの開放も可能とすることで、多用途に利用できる計画とします。

学習室は40人で利用可能な室です。図書館閉館後も利用可能な管理計画とします。3階に配置され、浸水災害時には一時避難施設としての利用も想定されます。

管理扉を設ける事で、運用時間が異なる図書館と切り離れた管理を行うことが可能です。

読み聞かせ室は、児童図書コーナーと連続して設け、一体利用も可能とする計画にします。

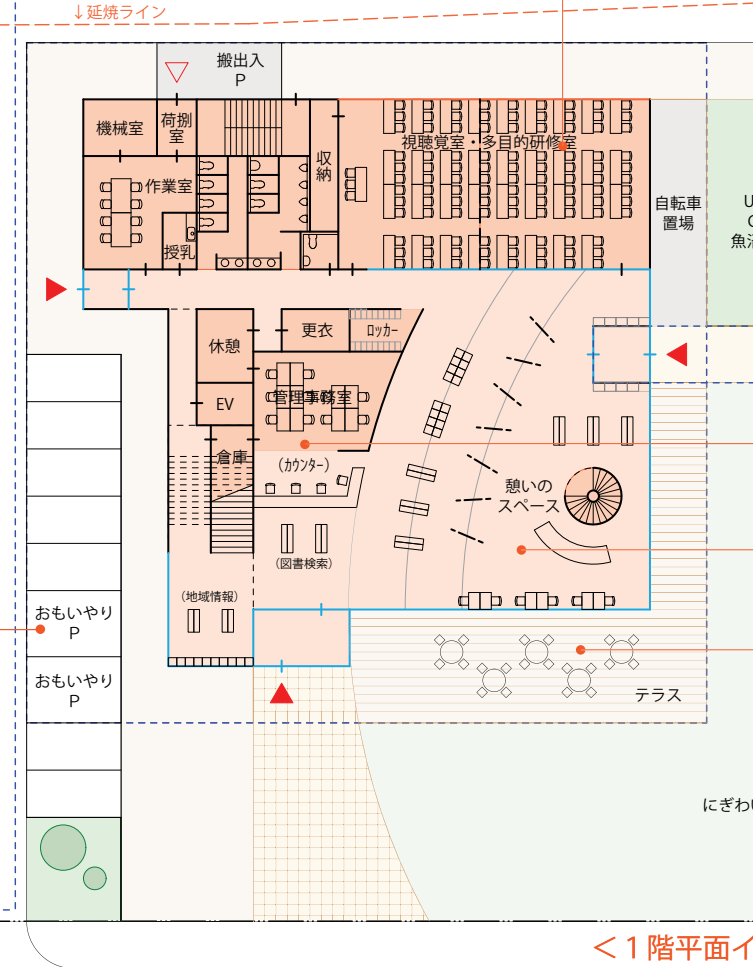
開架書架の壁の一部をガラス張りとし、貴重な書籍が覗き見れる計画とします。

段状書架の裏側の落ち着いた場所に視聴覚コーナーを設けます。

駐車場には大屋根を掛けて、降雪時に除雪なしで駐車できる計画とします。

エントランス近傍には、おもいやり駐車を設けバリアフリーに配慮した計画とします。

駐車場の屋根は市民の声とコストを考慮しながらその範囲を決定していきます。



<1階平面イメージ>

全てを管理しやすい1階に管理事務室とレファレンスカウンターを配置し、少ないスタッフでも利用者に対応できる計画とします。

図書館と公民館の事務室は一体としてワンオペでの対応を可能にします。

憩いのスペースは、視聴覚室兼多目的室やにぎわいひろばとつながり、イベントを開催することも可能です。

憩いのスペースは、市民が自由に集えるスペースです。市民のご要望に応じ、文化作品の展示やカフェ機能を持たせることも提案します。

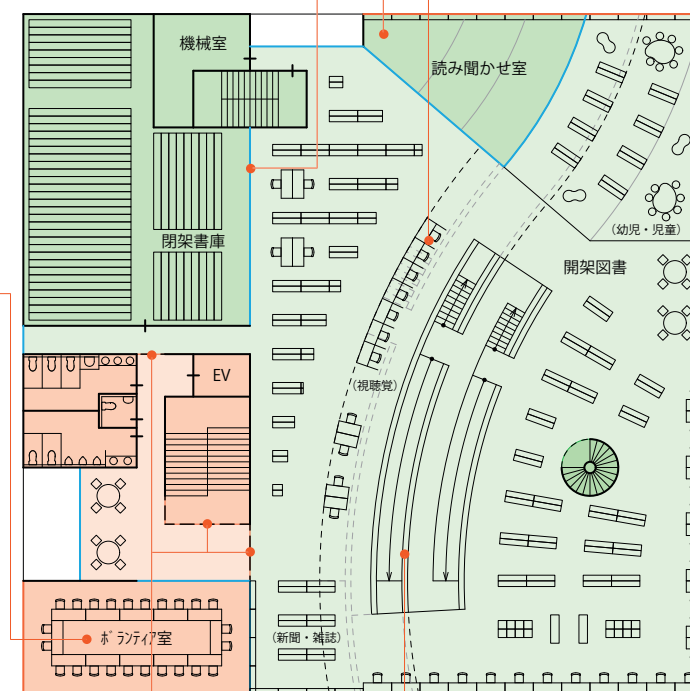
テラスは内と外の"にぎわい"をつなぐ軒下空間です。

市の木である『コブシ』や市の花『カタクリ』特産品の『ユリ』で彩られた憩いの庭とします。

ボランティア室は20人で利用可能な室です。図書館閉館後も利用可能な管理計画とします。2階に配置され、浸水災害時には一時避難施設としての利用も想定されます。

都市軸の交点となる場所に都市公園を設け、にぎわいの拠点を創ります。マルシェやキッチンカーなどで、まちのイベントの中心となるひろばです。

『にぎわいひろば』は、建物が立ち並ぶ商店街に生まれるオープンスペースで、災害時には防災公園としても機能します。



<2階平面イメージ>

管理扉を設ける事で、運用時間が異なる図書館と切り離れた管理を行うことが可能です。

柳原の石積みを再現した段状の書架に、色とりどりの書物が入れると、紅葉が広がる魚沼の森のようにも見えてきます。



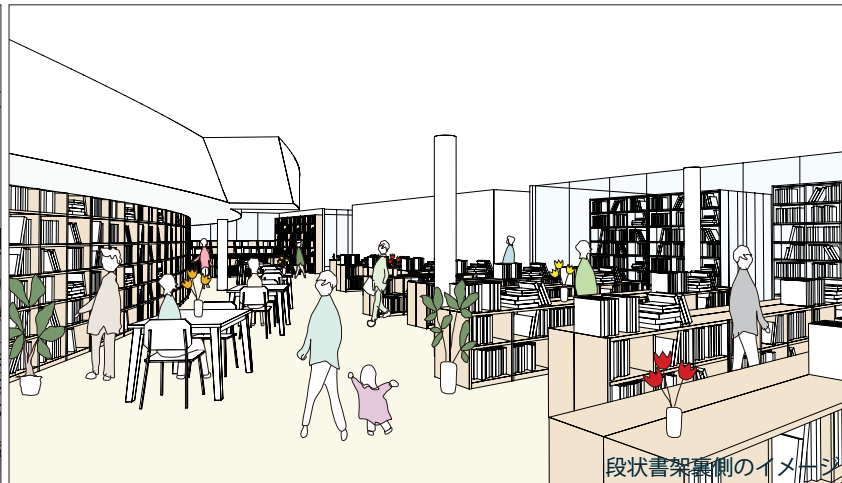
商店街のオープンスペースとして、防災公園としても機能する外観イメージ

個性豊かな、多様な居場所を創ります 【テーマ2】

魚野川の流れを思わせる曲線と、柳原の石積みを再現した段状書架を軸として図書室を構成します。段状書架の表側はオープンでアクティブな空間となり、裏側は落ち着いた空間となります。また、1階『憩いスペース』の賑わいが伝わる昇降動線から離れるほど落ち着いた空間になります。均一ではない壁や書架配置が個性豊かな空間を創り出し、多様な居場所を利用者へ提供します。



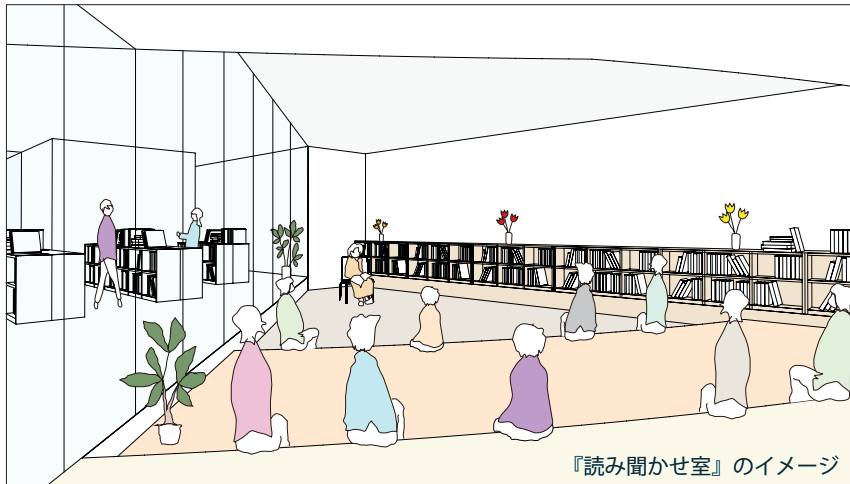
『図書室』のイメージ



段状書架裏側のイメージ

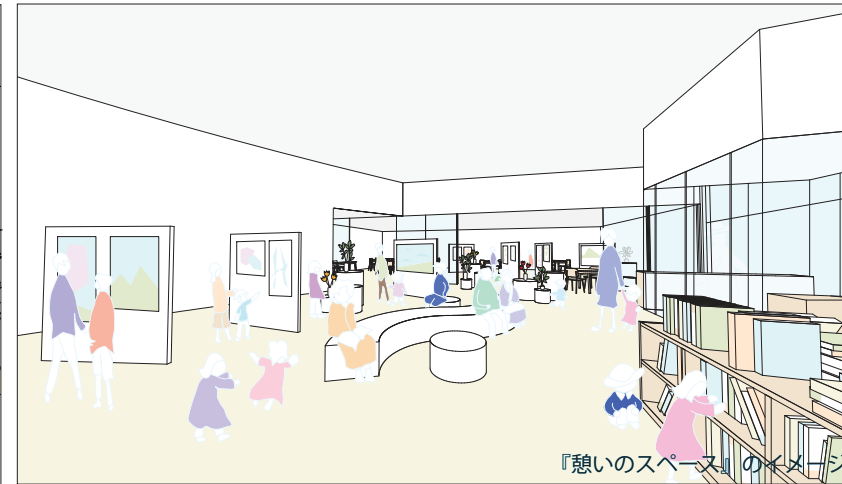
柳原の風景を再現した図書室。段状書架の表側は商店街へ開かれ、明るく開放的で、アクティブな書架となります。

段状書架の裏側は落ち着いた雰囲気のある書架となります。静かな場所です。集中したい時に適した場所です。



『読み聞かせ室』のイメージ

2階の奥へ設けられた読み聞かせ室は、落ち着いた環境で、防音機能も持たせ、心穏やかに物語の世界へ入り込めます。



『憩いスペース』のイメージ

1階憩いスペースは、ぶらりと訪れた市民を受け入れるスペースです。視聴覚室と連続してイベントも行えます。

避難施設としての機能

【テーマ2】

■ 洪水への対策

- 魚野川とその支流である佐梨川、破間川、羽根川に囲まれた計画地は、3~5m 浸水する可能性がある土地です。1階の階高を6mとし、2階以上は浸水させない計画とします。
- 天井高の高くなる1階に視聴覚室や憩いのスペースを配置します。このスペースは市民が集まるスペースでもあり、商店街へ賑わいを届けます。
- 浸水ラインより上の、2階ボランティア室や3階学習室は一時避難場所として機能します。
- キュービクル、発電機、受水槽、備蓄倉庫は屋上階へ配置し水害時も機能を止めない建物とします。



<浸水ライン断面>

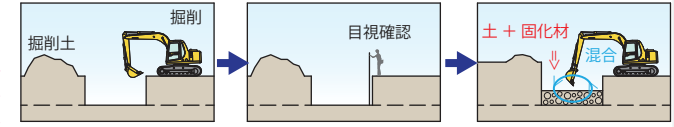
- 地震への対策: 耐震安全性構造体Ⅱ類の要求から、固定できる書架を高架とし、書籍の落下を防ぐ耐震標準構造下地や軽量天井を検討します。

構造計画

【テーマ2】

■ 躯体の軽量化: シンプルな平面計画を心掛け、適正スパンで、安全かつ経済的な構造計画を実現します。規模的には、耐久性に優れた品質の安定している鉄骨造が可能で、図書の積載荷重が大きい建物に対し躯体で軽量化を計り基礎への負担を軽減します。

■ 基礎形式の検討: 地盤データより、地下3m程度で礫層が出てくると考えられます。基礎計画は、その礫層へ支持させる柱状改良が最適と考えています。礫層を目視で確認してから改良深さを決定していくことが可能で、安心な工法です。また、現地土に固化材を混ぜて改良を行う工法を採用し、残土の少ない、環境へ配慮した計画とします。



■ 本棚の転倒防止対策: 層間変形角を一般より抑えて計画します。また、島配置の書架は底架とし、壁固定できる書架を高架とし、書籍の落下を防ぐ耐震パッドの設置を検討します。

利用状況に応じた管理を可能にする平面・断面計画

【テーマ2】【テーマ4】

■ 図書館機能と公民館機能

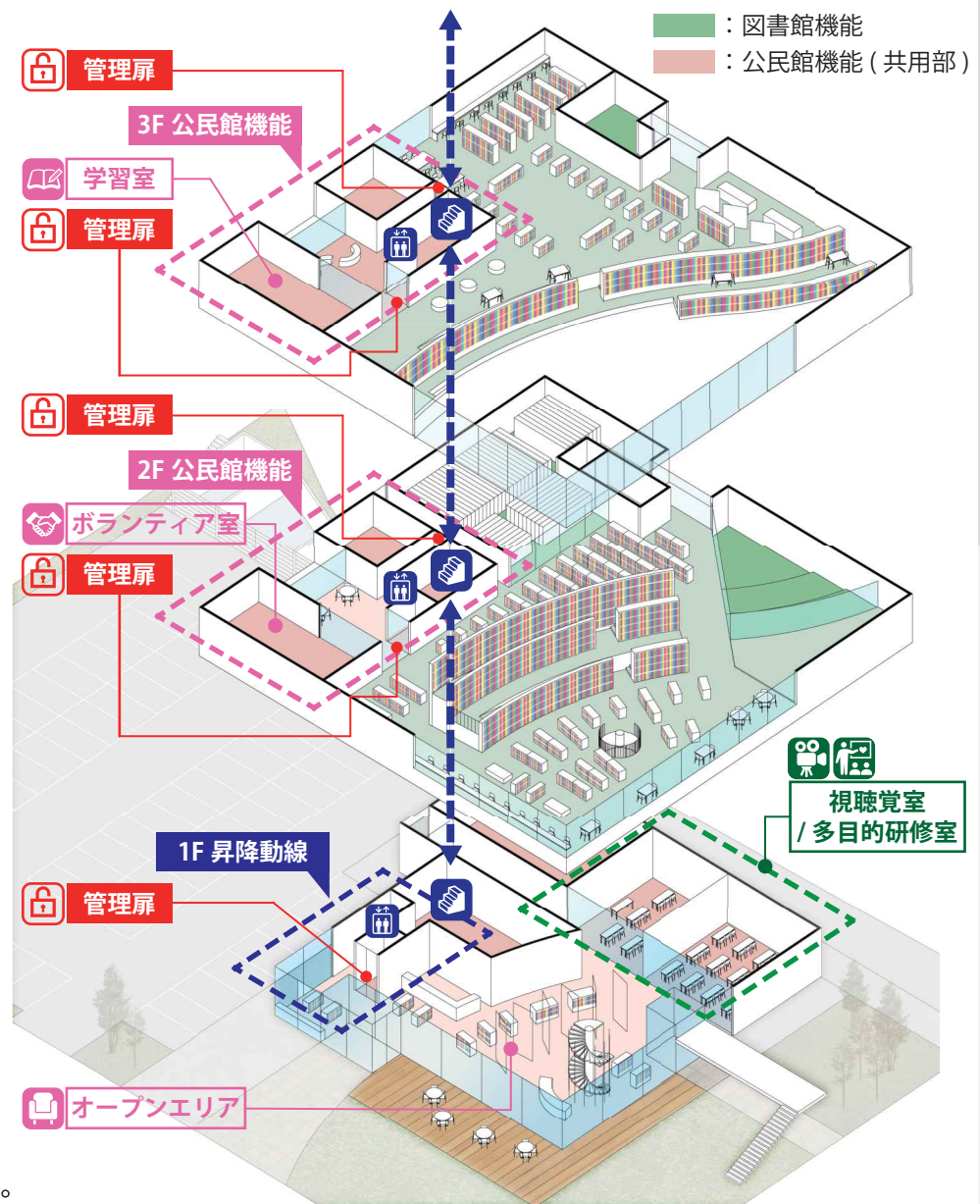
能は、基本的には空間を共用し相乗効果を生みながら構成されます。しかし、運営時間や休館日が異なる可能性もあることから、切り放した管理も可能な室配置とします。

■ さらには、公民館機能を1・2・3階で切り放し可能とし、市民の要望に合わせた自由な施設運営を可能にします。

■ 空間の多様な切り放しを可能にすることで、空調エリアも絞ることができ、無駄の無い計画となります。間仕切られた個室は個別空調方式とし、それ以外の空間は中央空調方式とし、メリハリのある設備計画とします。

■ コンパクトな平面計画でまとめた3階建て案とすることで、図書館機能と公民館機能が共有性を持ちながらも、多様な切り放し方が可能な計画となっています。

■ EVは経済性を考慮し、1台とします。位置を工夫することで、搬入用とサービス用を兼用します。



マクロな視点からダウンスケールしていき、計画地のポテンシャルを読み解く

【テーマ3】



① 都市拠点と地域拠点をつなぐ公共交通網のターミナル

① **公共交通のターミナル**としての可能性：図書館機能を持ち、商店街に近接する立地は、公共交通のターミナルとなる可能性を持っていると考えます。公共交通の利便性が高い魚沼市にあって、施設と公共交通網を結びつけることは、更なるにぎわいを生み出すきっかけになると考えます。現在、路線バスの停留所が市庁舎、商工会議所、本町通りにあることから、計画敷地への乗り入れも十分に可能と考えます。

② **市民が集う場所の中心地**：小出市街地の中でも、市庁舎、小出病院、大型商業施設を結ぶネットワークの中心地に位置しています。基本的に車移動でのネットワークとなりますが、十分な台数の駐車場を用意する事で、人の流れをつくる事が可能な立地と考えます。

③ **賑わいの交点**：敷地南側は南本町商店街に接し、北側に100m程で本町商店街もあり、賑わいの交点となる可能性を持っています。両商店街には駐車場が無く、路駐が目立つことから、この計画地を地域の駐車場として利用し、賑わいの交点となることを期待します。



冬の商店街に灯る、行燈のような建物のイメージ



② 市民が集まる場所のネットワークの中心

現小出郷図書館との相乗効果

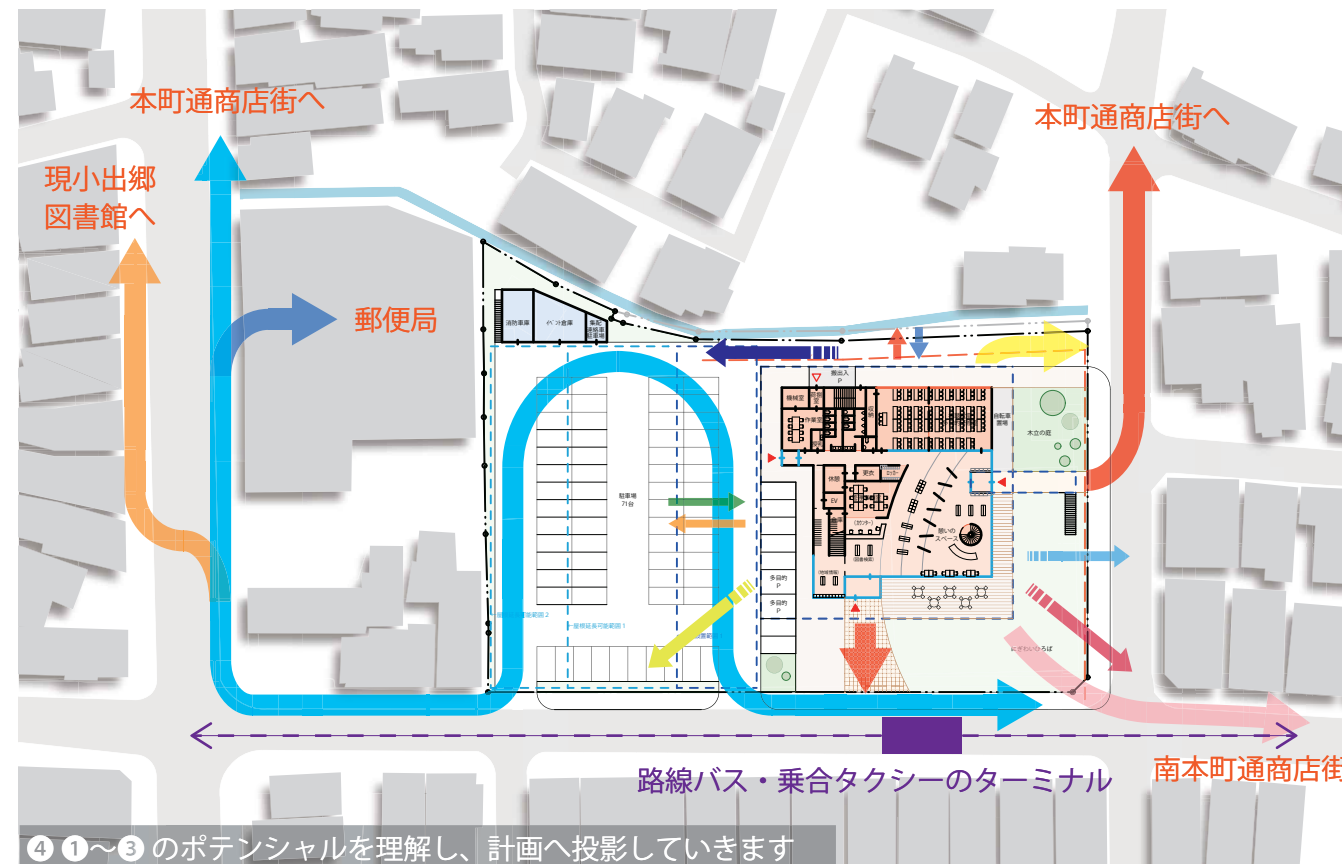
■ **リ・デザインによる新しい人の流れ**：この施設が建つことで、地域に新たな拠点・起点ができ、新しい人の流れが生まれます。その人の流れを、新しく生まれ変わる現小出郷図書館や周辺商店街と積極的につながるよう計画していきます。また、現小出郷図書館がコワーキングスペースや、サテライトオフィスなどにリ・デザインされることで、そこでも新しい人の流れや集い、交流が生まれ、相乗効果が期待できます。

■ **空き家＝地域資源！**：商店街の空き家（空き店舗）を活用し、人が集まる場所をつくります。リノベーション後の空き家をシェアハウスやチャレンジショップ、デイサービスなどに活用し、的確な運営やメンテナンスを行うことで、地域のにぎわいや経済に貢献する施設として生まれ変わります。市民、商店街、行政が一体となった「まちづくり」につながります。

■ **移住者の受け入れによる地域の活性化**：コワーキングスペースやチャレンジショップを活用し、市外・県外からの移住者を受け入れます。新しいことを始めたい、魚沼の四季を感じながら仕事をしたいなどの移住希望者を受け入れ、商店街をはじめ、魚沼市全体の活性化につなげていきます。



③ 本町商店街と南本町商店街の駐車場



④ ①～③のポテンシャルを理解し、計画へ投影していきます



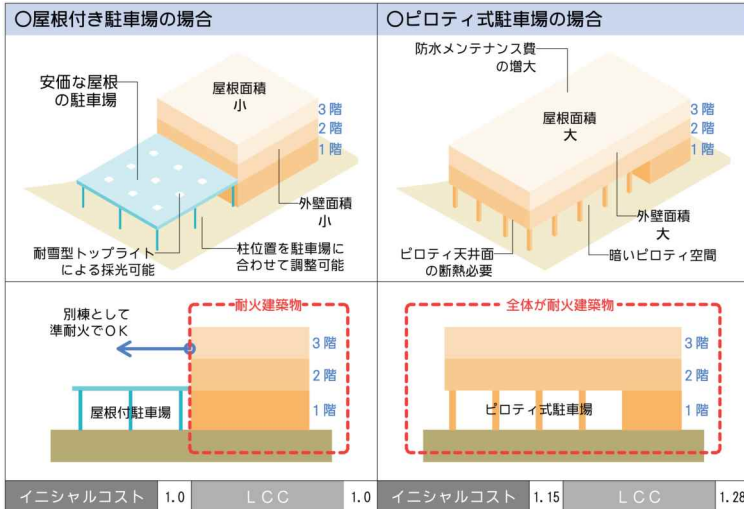
『憩いのスペース』『テラス』『にぎわいひろば』を望むイメージ  
『憩いのスペース』『テラス』『にぎわいひろば』は連続して地域の賑わいの拠点になります。



『テラス』のイメージ  
『テラス』は、にぎわいを感じながら読書や会話・カフェタイムを楽しめる軒下空間です。

【テーマ4】イニシャルコストへの配慮

■シンプルな形の建物：建物は正方形に近い平面形状をもつシンプルな形とします。ピロティ式駐車場のかわりに屋根付き駐車場とすることで基礎・屋根防水など様々な項目でコストダウンが図れます。屋根付き駐車場は**要望・予算によってその範囲を調整**でき、安価な構造とすることで**将来的な拡張も容易**にします。



■コンパクト化のメリット：同じ面積の建物でも**正方形**でつくることにより、長方形や凸凹の形状に比べ、**外壁の面積を小さく**でき、イニシャルコストを縮減することが可能です。

【テーマ4】環境への配慮

■SDGsの実現へ：環境負荷を**かけない**建築材料の選定と**資源を無駄にしない**建設工法の選定等に積極的に取り組んで行くことで、様々な世代の人にSDGsを普及・啓発を行い、市民ひとりひとりの意識改革と目標達成を目指します。

■ZEB Ready を目指した設計：竣工時に一次エネルギー消費量50%以上削減し**ZEB Ready**を目指します。(BELS評価による認証取得) 将来的にも、再生可能エネルギーの導入や、機器更新時の高効率機器を導入することでZEBの実現を目指します。

■with コロナ・after コロナにおける New Normal：BIM を活用した**気流シミュレーション**により、施設内の気流を可視化して最適な換気計画を行います。快適な活動環境をつくり、省エネも期待できます。扉レス、スイッチレス、非接触タッチパネルなどを採用し、館内設備の非接触化や自動化に努めます。



【テーマ4】魚沼の資源を活用

■魚沼の森を活用：豊かな森がある魚沼市の豊富な木材資源を様々な建材として活かし、地場産業の振興・育成への発展に寄与します。地元の気候風土に適した、**床のフローリング**や、**図書館の書棚**、**様々な家具**を使用することで、建物の質の向上を図り地域に愛される建物を目指します。



【テーマ5】地下水を使用しない降雪施設

■**克雪から利雪、そして親雪**  
 ・**克雪**：除雪の必要が無い堆雪型の駐車場は1年を通して利用  
 ・**利雪**：雪室を利用した冷房システムの検討  
 ・**親雪**：にぎわい広場を利用して冬季のイベント

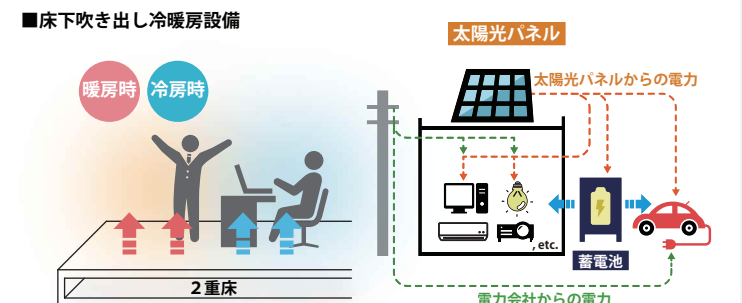


【テーマ5】サステナブルな建物を目指して

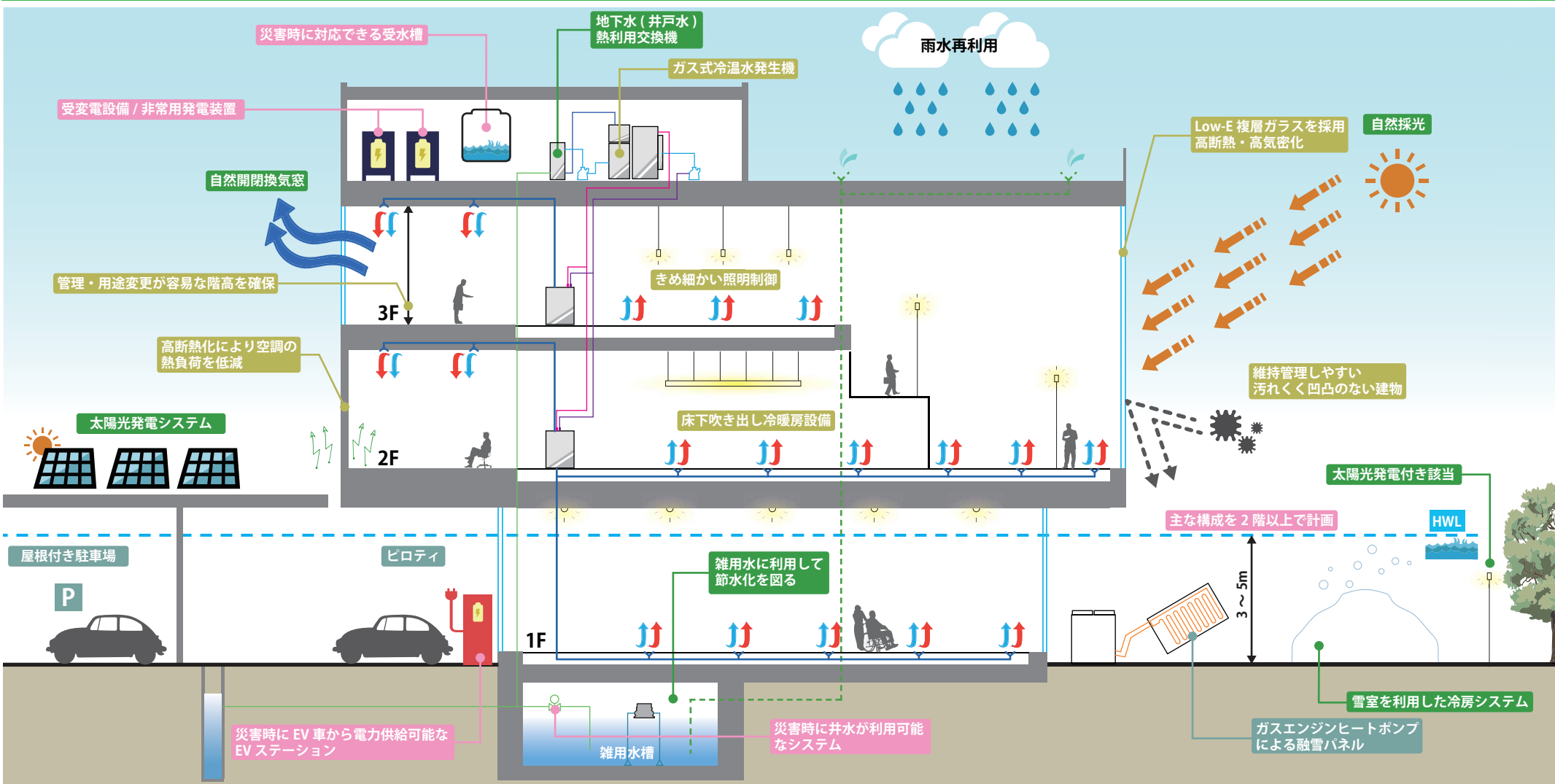
■**新・再生可能エネルギーの活用**  
 豊かな自然の力である「**地下熱・雨水・太陽光・風・木材・水・雪**」を活用した多くのエコアイテムを採用し、エネルギーをできるだけ使用しない建築を目指します。

■**ゼロカーボン（脱炭素社会）への取り組み**：エネルギー消費量の削減（建物の高断熱化・設備の効率化による建物のエネルギー消費量の削減）、使用する**エネルギーの脱炭素化**（地下熱・太陽光などの再生可能エネルギーの効率的な利用）に積極的に取り組みます。

■**ライフサイクルコストの低減**  
 外壁・窓の高断熱化による**熱負荷の低減**と、**高効率な設備**をバランスよく採用しエネルギー消費の低減を図ります。また、凹凸のない外壁と最小の防水面積、更新が容易な設備計画とすることで**維持管理しやすい建物**を目指します。



サステナブルな建物を目指して <自然エネルギーを活用した設備断面イメージ>



【テーマ5】サステナブルな建物を目指して <設備検討項目>

テーマ	内容	
新・再生可能エネルギーの活用	地下水の利用	地下水の利用
	雨水の利用	雨水の利用
	太陽光の利用	太陽光の利用
	風の利用	風の利用
	木材の利用	木材の利用
	水の利用	水の利用
	雪の利用	雪の利用
	回生力の利用	回生力の利用
地下水を利用しない降雪設備	消雪・除雪が不要	ピロティ、堆雪型の鉄骨駐車場
	融雪パネル	ガスエンジンヒートポンプ方式
	外壁高断熱化	外壁断熱材厚 50mm 屋根断熱材厚 70mm
	開口部高断熱化	Low-E 複層ガラス
	高効率空調システム	ガス冷温水発生器 / 床下吹き出し冷暖房設備
	高効率換気システム	換気全熱交換器 / CO2 濃度制御人感センサー
	高効率照明システム	LED 照明 / 昼光センサー調光 / タスク・アット・エ照明
	見える化	温度センサー(各部屋) / エネジー-使用量や機器運転時間を把握できる監視システム
ライフサイクルコストの低減	維持管理	管理・用途変更が容易な階高計画 汚れにくく凹凸のない建物
	断水対策	受水槽・井戸水の利用
	停電対策	非常用発電装置を計画 災害時に電力供給可能なEVステーション
	ウォーターハザード	主な構成を2階以上で計画 受変電・空調設備等の重要設備をPH階で計画